

介護保険 負担増狙う

社保審 厚労省が議論再始動

厚生労働省は10日、
結論を先送りにしてい
た介護保険制度の大改
悪について、利用料や
保険料の負担増の議論
を社会保障審議会の部
会で再始動しました。
年末までの取りまとめ
に向け、議論を本格化
させたい構えです。
利尿料については、
利尿料については、

2015年8月から
「一定以上所得者」に
導入した2割負担の対
象拡大を狙っています。
22年10月から75歳
以上の医療窓口負担を
2割に引き上げた「一

度の制度創設以来、右
肩上がりです。しかし、
一定の所得がある
65歳以上を対象にさら
に引き上げる計画で
した。

介護団体や連合の委
員らは「(生活実態を)
平均値で一律に判断す
られない高齢者が出て
はならない」と反発。
政府が昨年末以

来の22年度の平均所得
が“想定”だとして、
値上げを正当化する考
えを示唆しました。

保険料は2000年
が「遺憾に感じてい
る。また先送りがあつ
てはならない。確実な
実施を」とけしかけま
した。

これらの制度改悪
は、国民の批判に押さ
れた政府が昨年末以
降、2度たたって結
物価高騰が続いてお
り、長期化も懸念され
ている」「経済的事情
で介護サービスを受け
られない高齢者が出て
はならない」と反発。
政府が少子化対策の財
源確保を口実に「歳出
改革」を掲げている問
題に対しても、「社会
保障の機能劣化を招く
ではないか」との批
判が出ました。